

『とことこ』 作：ポチ子

『とことこ』 作：ポチ子

いつもの道を、

とことこ歩く。

右足を出して、

左足を出して、

その繰り返し。

この一歩になんの意味もない。

大きくも、

小さくもない。

ただ駅まで行くための一歩だ。

右足を出すことも、

左足を出すことも、

当たり前に出れなかった時、

この一歩には意味があった。

前に進む一歩に、

価値があった。

小さくても良かった。

昔は出来ていたはずなのに、

もうその一歩が踏み出せない。